

# 26年度 氷見市教育総合センターだより 第2報

## 学力向上研修会

演題 学力向上に向けた課題と対策

5月20日実施

講師 富山県総合教育センター学力向上推進チームアドバイザー 山本 晶 先生

今年度の教育総合センター主催の研修会がいよいよ始まりました。「学力向上研修会」には、市内小中学校の教務主任や研究主任等30名が参加しました。

山本先生からは、平成25年度全国学力・学習状況調査結果等から、富山県の課題や学力向上の取組について、また、各学校での学力調査結果の活用の仕方等について幅広くお話をいただきました。



以下参加者の感想の一部を紹介します。

- ・全国学力調査の結果を分析し、全教員が自校の課題と対応策を一緒に考えていくことが大切であると改めて思った。全教員で問題を解いてみたり、指導法もある程度パターン化したりするなど学校全体でベクトルを一つにしていくことが最も大切だと思った。
- ・山本先生のお話を聴き、「教師が」と一途的な目線で見えていた自分を反省した。あくまでも主役は子供。子供を信じ子供は伸びる。子供ができない時自分の指導法を振り返る。こんな当たり前のことを忘れていたように思う。改善のポイントは、自分自身の指導法を見直すこと。教えてくれるのは子供たちの姿。学校へ戻り一人一人を見つめ育てられるよう、チームで取り組んでいきたい。

## 第1回教育相談等コーディネータースキルアップ研修会

演題 特別な支援を要する児童生徒の実態把握

5月27日実施

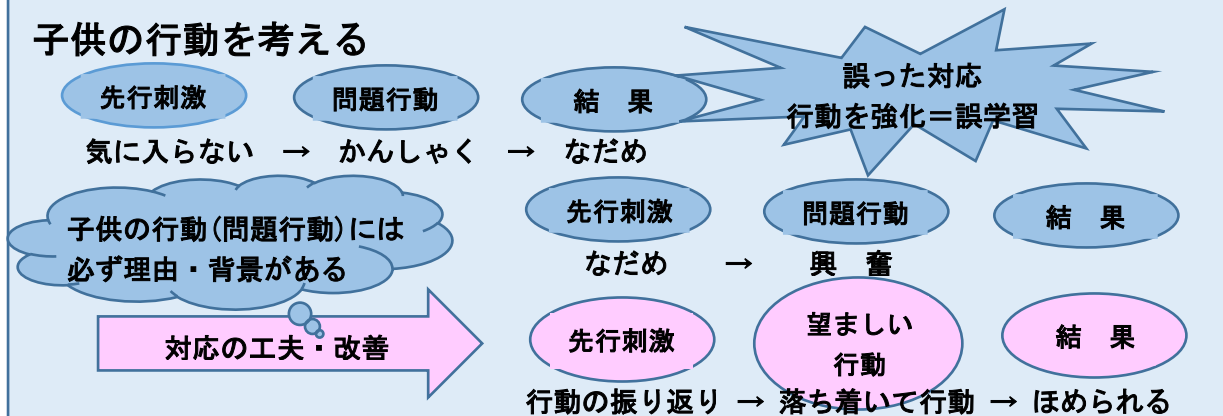
講師 氷見市教育委員会学校教育課 指導主事 西田 祐伸 先生

学校が抱える特別な支援を要する児童生徒(不登校や発達障害等)への対応には、チームによる支援が大切です。チームによる支援体制を構築し、負担感の少ない効果的でスムーズな連携を推進するため、コーディネーターのスキルアップが必要です。4回シリーズで本研修会を開催します。研修内容の一部を紹介します。

### ◇子供の行動を分析する視点

- ① 問題行動を整理して考える(支援の軽重)
- ② 行動のきっかけを考える
  - ・どんな時(場面・友達や教師の発言等)
  - ・その日のそれまでの出来事(家庭・学級)
- ③ 教師(友達)の対応・結果を整理する→記録

### 子供の行動を考える



# 幼・保・小連携教育研修会

演題 幼・保・小連携の在り方について～特別支援教育の視点から～

講師 西部教育事務所 特別支援教育指導員 田中 恭世 先生 6月10日実施

幼・保・小の連携の進め方について理解を深め、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、本研修会を開催しました。今回は、幼稚園・保育園と小学校の違いや発達障害の影響について、特別支援教育の視点から研修を進めました。幼・保と小学校の連携について考える機会となりました。研修内容の一部を紹介します。

## ◇小1プロブレムの背景にあるもの [発達障害による困難]

- ① 授業中座ってられない ・座っているスキルの未習得
- ② 教師の指示が理解できない
  - ・抽象的な表現が理解できない 聞いたことを記憶することが苦手
  - ・聞き分ける力に弱さがあり、聞き間違いが多い
- ③ ささいなことで、友達とけんかになる
  - ・感覚過敏がある、衝動性がありコントロールが難しい
- ④ 学習についていくことができない
  - ・学習障害があり、読み書きが苦手 視覚機能に困難がある

## ◇支援をつなぐために

全体への指示を聞いて行動に移せない

- ① 教師の指示や話を聞けない 指示を聞き取りやすい位置・視覚的な手掛かり
- ② 聞いているけども、覚えられない ゆっくり、順序よく・複数の指示はしない
- ③ 他のことに気をとられて、指示を聞けない 注意を促すための手立て
- ④ 指示は聞いているが理解できない 目で見て分かる手掛かりやモデルを示す
- ⑤ 内容を聞き間違え、間違いに気付かない 聞き取れているか、確認する

## 夏季研修会のお知らせ

研修会名	内容・講師	実施日
1 仲間に学ぶ研修会	危機管理や教育カウンセリングに関する研修 窪小 瀬戸佳美先生・西條中 濱下真由美先生	7月29日(火) 9:00~12:00
2 学校経営研修会	法的根拠を踏まえた今日的な課題への対応 弁護士 島谷武志 先生	7月29日(火) 14:00~16:00
3 理科教育講座	身近な地域の地層や川の観察、動植物の観察 県総合教育センター 科学情報部	7月30日(水) 9:30~16:30
4 第1回教育セミナー (第2回学力向上研修会)	学力向上を支える学級づくりについて 上越教育大学 准教授 赤坂真二 先生	7月31日(木) 13:30~16:45
5 ふるさと教育研修会	市内の主な施設や史跡について 生涯学習・スポーツ課及び博物館学芸員	8月1日(金) 7:00~11:30
6 第2回ICT活用力向上研修会	授業効果を高めるICT機器活用法 富山大学 教授 山西潤一 先生	8月6日(水) 13:30~16:45
7 第2回教育相談等コーディネーター スキルアップ研修会	チームで関わる個別の支援 富山大学 教授 喜田裕子 先生	8月8日(金) 14:45~16:45
8 3大学連携による教員研修会 (第3回学力向上研修会)	富山大学 教授 松本謙一 先生 上越教育大学 教授 岩崎 浩 先生 富山国際大学 教授 水上義行 先生	8月11日(月) 9:00 ~16:40
9 第2回生徒指導研修会	インターネット上の危険性について 県総合教育センター科学情報部	8月20日(水) 14:30~16:45
10 第3回ICT活用力向上研修会	デジタルコンテンツを活用した授業改善 富山大学 教授 山西潤一 先生	8月25日(月) 13:30~16:45
11 第2回教育セミナー (第3回教育相談等コーディネーター スキルアップ研修会)	通常学級における特別支援教育 新潟大学 教授 長澤正樹 先生	8月26日(火) 10:00 ~11:45

平成 24・25 年度学力向上市教委プラン研究委託事業研究拠点校の取組から  
学力を高める授業づくり

氷見市立窪小学校

## 1 研究内容及び成果

### (1) アクションプランと関連させた学力向上の取組

① 児童の実態把握とアクションプランの設定(5月)

② アクションプランの結果より

ア「聞く・話す・書く」活動を重視した授業づくり

イ「話し方」の提示や学習形態の工夫

少しでも話しやすい雰囲気をつくるため、ペアやグループでの話し合い活動を工夫したことで、80%の子供たちが「終わりまで話せる」「自分の考えを話している」と自己評価した。

ウ 家庭と連携した家庭学習

各学年で「自主学習のすすめ」を作成し、取り組んだ。また、本に親しむこと、読む力を高めること、集中して学習することの習慣化を目指し、全校で土・日の宿題として読書に取り組んだ。各学年で発達段階に応じて記録カード等を工夫することにより、達成感を味わう子供が増えた。また、手軽に取り組むことができる学習プリントを準備することにより、これまでよりも自主的に学習する子供が多く見られるようになった。



### (2) 外部講師を招いての研修

富山大学人間発達科学部教授松本謙一先生による「関わりの深まる授業づくり」、富山大学人間発達科学部准教授阿部美穂子先生による「ユニバーサルデザインを意識した学級づくり、授業づくり」「普通学級における特別に支援の必要な児童への対処方法」の2本立てで研修を行った。

### (3) 校内研修の充実

授業実践では、学習の見通しをもつためのゴールを提示したことで、常に目標を意識して学習を進めることができた。また、友達の考えを実感できる追体験の場やペア学習を取り入れたことで、関わり合いながら考えを深めることができた。さらに、空欄部分の量が異なる数種類のワークシートを作成し、選択できるようにしたことで、一人一人に自己決定を促し、学習の意欲化を図ることができた。

授業後の協議会では、視点ごとにフリーカードを貼り付けることで、焦点化された話し合いが展開され、どのように授業を改善していくかに重点を置きながら話し合うことができた。

## 2 今後の課題

(1) ペアやグループ学習の工夫に加え、少人数指導や習熟度別指導を意図的・継続的に行っていく必要がある。

(2) 家庭学習の目標時間については、定着が70%に留まっており、アクションプランと関わらせながら、家庭との連携を深め、家庭学習の充実を図っていく必要がある。

(3) 学力・学習状況調査のB問題については二極化が顕著であり、学習課題を解決するための教師の発問の精選や個に応じた手立て、子供同士の関わりを生む言葉がけ等を工夫する必要がある。

## 「はっ」と立ち止まった「一言」 ～月刊誌・書籍・研修会から～

### 「同じ言葉でも」

よく遅刻をする生徒が定時前に登校したとき、二人の先生が「早いね」と同じように声をかけたんですね。ところがその生徒は、一方の先生のことだけ、「嫌みを言われた」と友人に語っていたんです。一方の先生は遅れなかったことを喜んで声をかけたが、もう一方の先生は珍しいなという気持ちで声をかけた、その違いです。つまり、同じ基準で指導しても、生徒を思って指導したか、突き放すように指導したかで、生徒の受け取り方は全然違ってきます。

(月刊生徒指導2014年6月号 p12座談会より引用)

### 「協同学習の考え方と進め方」

協同学習ではまず、「課題の明確化」を提案しています。本時、何を学ぶのか、どこまで達成できたら成功なのかを、子ども自身も評価できるように、はじめにきちんと知らせます。明確な課題が記されていない指導案による授業は、教師主導と予想してもまず間違いはありません。……授業の最後には学びの「振り返り」も必須だと考えています。授業には自分が変わるために臨んでいるのだ、授業は先生の仕事ではなく、自分の仕事なのだということがしっかり分かっていることは重要な学力です。一時間が教師の話で終わるのではなく、自分の学びを振り返って終わることで、子どもは学びの値打ちが分かり、学びは「わがこと」という自覚ができていきます。

(月刊学校教育相談2014年7月号 p26 杉江修治著より引用)

### 「理想的な校内研修の条件」～ベクトルをそろえる～

「この学校に必要なものはなんですか」と先生方に質問したとき、ベクトルがそろっている学校は、先生方から異口同音に同様の答えが出てきます。しかし、十分な議論がなされていない学校では、各先生方がバラバラなことを言います。

#### ○ 課題を絞り込む

学校改善のためにあれもこれも欲張って取り組んでいる学校は、あまり成果が上がらないことが多いようです。……一番大事なことに課題を絞り込み、エネルギーを集中させるべきです。

#### ○ 先生が元気になれる研修を

校内研修で先生のやる気を引き出すには、温かさや同僚からの承認が必要なのです。感謝されたり、ほめられたり、尊敬されたり、そのような言葉が交わされるシステムをつくることが大切です。

(総合教育技術 2014年6月号「課題を絞って校内研修を行い結果を出せば学校が変わっていく」

上越教育大学 教職大学院准教授 赤坂真二 著 p10-13 より引用)

### 「父親への対応(役割)」

- ・ 父親の存在の意義を伝える  
……しつけ・教育・将来にとって、父親の役割は一番重要
- ・ 学校のルールを守ることをことばで教える  
暴力は絶対に使わない(体罰の禁止)
- ・ 守ることを父と約束
  - ①父親と約束を堅く交わすこと
  - ②約束が守れたら、十分ほめてあげること
  - ③守れないとき厳しく戒める父親が変われば母親は変わり、子どもも変わる

(5月29日(木)、県総合教育センターで開催された新潟大学教授 長澤正樹先生の講義で活用された、プレゼン資料より引用)



※ 本ページで紹介した新潟大学教授 長澤正樹先生、上越教育大学教職大学院准教授 赤坂真二先生は、今年度の教育セミナーの講師にお願いしてあります。